



一般社団法人
日本糖尿病・妊娠学会 ニューズレター
 The Japanese Society of Diabetes and Pregnancy News Letter

2024年10月発行 Vol.26 No.2

第51号

第40回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会のご案内

テーマ：小児・思春期から始める母児の healthy life cycle

会期：2024年11月22日(金)・23日(土) 会場：ソニックスティ (さいたま市)



第40回日本糖尿病・妊娠学会
年次学術集会長

菊池 透

埼玉医科大学小児科

第40回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会 (The 40th JSDP 2024 Saitama) は埼玉医科大学小児科が担当させていただきます。会期は2024年11月22日(金)・23日(土)で、会場は、さいたま市大宮駅西口から徒歩5分のソニックスティです。小児科が担当するのは、第35回学術集会(会長杉原茂孝教授)以来5年ぶり、埼玉医科大学小児科が担当するのは、第26回学術集会(会長雨宮伸教授)以来14年ぶりとなります。

テーマは、「小児・思春期から始める母児の healthy life cycle」です。小児・思春期の肥満、糖尿病は、妊娠中の糖代謝異常を惹起し、分娩後の母体糖尿病や次世代の肥満、糖代謝異常の要因となります。しかし、小児・思春期から食育や肥満予防対策をすることで、妊娠中の糖代謝異常を予防し、さらに、母体と次世代の肥満、糖代謝異常を予防することができると考えられています。また、糖尿病女性のプレコンセプションケア、妊娠中の適切な糖尿病管理も児の肥満、糖尿病代謝異常の予防に繋がります。このような healthy life cycle を実現させることができることが、本学会の活動成果の社会実装と考え、JSDP 2024 の

テーマとさせていただきました。

主なプログラムを紹介します。海外招聘講演は、HAPO study での児の Follow-up Study で有名な William L. Lowe Jr 先生 (Northwestern University) に、特別講演は、益崎裕章先生 (琉球大学) にご講演をいただく予定です。4つのシンポジウム①日本糖尿病・妊娠学会の成果の社会実装、②ペダーセン仮説とバーカー学説、③糖代謝異常妊娠の最善の予後目指した体重管理、④1型糖尿病女性が安心して妊娠を迎えるための先進医療器機の活用。5つの教育講演。今回から始まる日本小児・思春期糖尿病学会&日本糖尿病・妊娠学会交換レクチャーを予定しています。このように、JSDP の理事・評議員等の先生方のご指導を賜り JSDP 2024 に参加されるすべての皆様に、満足いただけるプログラムが完成いたしました。ぜひ、多くの皆様がご参加し、熱い議論を交わしていただければと存じます。

会場のソニックスティは、都心部からのアクセスには恵まれていますが、大宮駅周辺には、宿泊施設が少ないです。宿泊を予定されている方は、お早目に宿泊先の確保をお勧めいたします。

JSDP の会員の皆様におかれましては、40 以上の一般演題を応募いただき、誠にありがとうございました。今回からメディカルスタッフ賞の授与もありますので、ご期待ください。JSDP 2024 が、「母児の healthy life cycle」の実現に貢献できるように準備をしてまいります。たくさんの皆様とソニックスティでお会いできることを心待ちしております。



第41回 日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会のご案内

テーマ：糖尿病領域のプレコンセプションケアを考える

会期：2025年10月24日(金)・25日(土) 会場：砂防会館（東京都千代田区）



第41回日本糖尿病・妊娠学会
年次学術集会長

荒田 尚子

国立成育医療研究センター
周産期・母性診療センター母性内科

第41回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会は、国立成育医療研究センター母性内科の荒田尚子が担当させていただきます。会期は2025年10月24日(金)・25日(土)で、会場は、東京都千代田区平河町の地下鉄永田町駅最寄りの砂防会館です。第37回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会（会長：和栗雅子大阪母子医療センター母性内科主任部長）以来の2回めの母性内科の担当であり、身の引き締まる思いでございます。大学と違ってスタッフの人数がきわめて少ない中、スタッフ一同、力を合わせて準備に取り組んでいきたいと思います。テーマは、「糖尿病領域のプレコンセプションケアを考える」とさせていただきました。Molsted-Pedersenらが、1964年に糖尿病をもった女性における先天奇形の高い発生率を初めて報告し、以後、糖尿病をもった女性に対するプレコンセプションケアの必要性が注目されました。成育医療研究センターでは、2015年にわが国初のプレコンセプションケアセンターが開設されましたが、その疾患モデルとなっているのはもちろん糖尿病です。一方で、このケアが妊娠転帰を改善し、その費用対効果も明らかであるにもかかわらず、糖尿病をもった女性のケアはいまだ十分とはいえません。日本の現状、課題、そして今後、糖尿病領域のプレコンセプションケアを充実させるための方策を具体的に議論し実施の原動力になるような会を目指したいと思います。

また、本学会において、私どもは、DREAMBee 研究の事務局を2015年より承っております。登録が始まってほぼ9年を迎ますが、本研究を振り返りながら、このデータから放出される日本の糖代謝異常合併妊娠に関するエビデンス、そして、それをどのように臨床の現場に生かしていくかなど、課題を探索しながら、次のステージの糖代謝異常合併妊娠の登録調査の在り方を考えていけたらと思います。

本年次学術集会では、産婦人科、糖尿病内科、新生児科、小児科などの医師、助産師、看護師、管理栄養士など複数の職種、診療科の方々が参加し、熱い議論が交わされます。さらに魅力的な場にするべく、多くの会員の皆様にご指導をいただき、最良のプログラムにすべく鋭意準備してまいります。会場の砂防会館は、日本の政治の中枢部にある歴史ある建物です。年次集会の盛会のためには、皆様からの多くの演題をいただくことが一番です。会員の皆様のご協力をお願い申し上げます。たくさんの皆様とお会いできることを心待ちにしております。



上塘 正人

鹿児島市立病院
周産期母子医療センター

Gut microbiomeの世代間伝達と周産期医療の問題点

近年のメタゲノム解析により、gut microbiome は腸管に生存する単なる細菌群ではなく、holobiont（複数の異なる生物が共生関係にあって不可分の一つの全体を構成する集合体）として、数十億年前から真核生物と共生関係となり、宿主と共に進化することで、われわれの祖先の表現型を形成してきたという説が導き出されています¹⁾。これはすべての複雑生命体の進化は、地球上の最初の生命体である細菌との関わりの中で起こってきたという考え方です。共生関係の維持には gut microbiome の母系統による世代間伝達が必須ですが、哺乳類には分娩から新生児期において確実に細菌が伝達されるメカニズムが備わっています¹⁾。産道と直腸との位置関係はその一つです。経産分娩において児は母親の腔と会陰の糞便微生物にさらされ、皮膚と口を母由来細菌で覆われた状態で生まれ、腸管に細菌が伝播されます。もう一つは、これら伝播された細菌の新生児腸管への定着に必要な母由来 IgA を産生する腸管免疫システムの発達です。腸管 B 細胞が分泌

する IgA はそれぞれの腸内細菌に対応する多くの種類が存在し、有益細菌に対しては biofilm を形成し粘膜面への生着増殖を促進します。一方、有害細菌に対しては排除するように作用し、生体の健康を維持しています¹⁾。この腸管 B 細胞は乳腺にも移動し、乳汁に IgA を分泌します。新生児腸管内では母由来細菌を母由来 IgA が制御するという母体腸管と同様な状況が再現され、母体と同様な microbiome が形成される基礎が出来上がります²⁾。この gut microbiome の世代間伝達は、多くの事象により阻害され、microbiome の伝達エラーに伴う児の病的変化として報告されています。周産期における抗生物質の頻用、帝王切開の増加、人工乳授乳、児と母親の肌と肌、口と乳房の接触減少、自然環境から隔離された人工環境などが gut microbiome の伝達エラーに関与します。生活の都市化や食生活の変化も microbiome の多様性の低下に伴う妊娠糖尿病などの代謝性疾患の増加と直接的な関連が示されています³⁾。太古より共生してきたわれわれの一部である gut microbiome が近年の医療介入やストレスによってどのように変化するのか、また、それに対する治療などに関しては不明なことが多く、今後の研究が待たれるところです。

文献

- 1) Dominguez-Bello MG, et al.: Role of the microbiome in human development. *Gut*, 68 (6) : 1108-1114, 2019
- 2) Donald K, et al.: Secretory IgA: Linking microbes, maternal health, and infant health through human milk. *Cell Host Microbe*, 30 (5) : 650-659, 2022
- 3) Dias S, et al.: The Maternal Microbiome and Gestational Diabetes Mellitus: Cause and Effect. *Microorganisms*, 11 (9) : 2217, 2023

国内関連学会開催日程

第59回糖尿病学の進歩

テーマ：100年のライフコースを俯瞰する糖尿病診療

2025年1月24日(金)・25日(土)

司会者：益崎 裕章（琉球大学大学院 医学研究科 内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座（第二内科））

会場：那覇文化芸術劇場なはーと、ホテルコレクティブ、ホテルJALシティ那覇、那覇市ぶんかテンプス館、桜坂劇場

公式ホームページ：<https://59shinpo.com/>

第38回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会

2025年3月28日(金)・29日(土)

会長：中村 昭伸（北海道大学大学院医学研究院免疫・代謝内科学教室講師）

会場：ニューオータニイン札幌

公式ホームページ：<https://jsedo.jp/jsedo38/>

第68回日本糖尿病学会年次学術集会

テーマ：臨床と研究の架け橋～ translational research ～

2025年5月29日(木)～31日(土)

会長：金藤 秀明（川崎医科大学 糖尿病・代謝・内分泌内科学）

会場：ホテルグランヴィア岡山、ラヴィール岡山、岡山コンベンションセンター、ANAクラウンプラザホテル岡山、三木記念ホール、岡山シティミュージアム

公式ホームページ：<https://site.convention.co.jp/68jds/>

トピックス



守屋 達美

北里大学健康管理センター

妊娠前の高度肥満外科手術にも
関心をもちましょう

肥満（症）合併妊婦には妊娠中や分娩後の合併症が多いこと、とくに肥満を伴うGDMは一時期耐糖能が改善したように見えても将来の2型糖尿病の発症頻度が高いこと、児の合併症や予後に関連することなどはよく知られています。私たちは、とくに目の前の肥満妊婦に注目しがちですが、妊娠前の体重管理はpreconception careの観点からも重要です。内科側からは肥満女性に対しては、栄養管理を厳重に行い、そのうえで妊娠に誘導するのが常です。しかし、内科治療だけでは、十分な減量効果を得ることは困難な場合が多いです。

一方、欧米では高度肥満の改善のため、肥満外科手術が多数行われています。本邦でも症例数が増えており、一般的な治療になりつつあります。現在日本で施行されている肥満手術は、主に腹腔鏡下スリーブ状胃切除術（LSG）、腹腔鏡下スリーブバイパス術、腹腔鏡下調節性胃バンディング術、腹腔鏡下ルーワイ胃バイパス術があります。前2者が本邦において保険適用になっていますが、とくにLSGがいろいろな施設で行われるようになっており、現在世界中で行われている手術の過半数を占めるといわれます。これらの手術の効

果は単に胃の貯留能が低下するだけでなく、さまざまなメカニズムで減量や代謝改善の効果があるといわれます。詳細は、総説・論文をご参照ください。

そして、欧米では肥満外科手術を行って体重が減少してから妊娠に臨むという報告もなされています。コンセンサスミーティングも開催され、recommendationも提示されています¹⁾。本邦でも少数例ですが、報告が散見されます。一定以上の減量効果が期待される治療ですが、外科治療から1～1.5年あけてから妊娠すること、妊婦のメンタル面にも十分気を配ることなどが注意すべき点です。さらに、LSGは摂食制限を目的とした胃の縮小手術ですが、高度肥満症患者は併存疾患などによる手術リスクが高く、術前減量を行い手術の安全性を高め、術後の合併症予防や栄養素欠乏のリスクに対応する食事法などを理解・実行する必要があります。すなわち、長期の減量が得られる治療法ですが、良好な結果を得るには外科手術だけでは不十分で、食行動修正を含めた食事療法が治療の根幹であると認識することが、効果の維持のためには必要不可欠です。

今preconception careや妊娠中における至適体重管理に注目が集まっています。この「妊娠前からの肥満外科手術」は、児の短期的・長期的予後も含め、まだevidenceを蓄積すべき段階ですが、日本糖尿病・妊娠学会の会員としても関心をもつ必要があると考えています。

文献

- 1) Shawe J, et al.: Pregnancy after bariatric surgery: Consensus recommendations for periconception, antenatal and postnatal care. *Obes Rev*, 20: 1507-1522, 2019

海外関連学会開催日程

SMFM 2025 Pregnancy Meeting

2025年1月27日(月)～2月1日(土)

会場：アメリカ デンバー

公式ホームページ：<https://smfm2025.eventscribe.net/index.asp>

18th International Conference on Advanced Technologies & Treatments for Diabetes

2025年3月19日(水)～22日(土)

会場：オランダ アムステルダム

公式ホームページ：<https://attd.kenes.com/>

IDF World Diabetes Congress 2025

2025年4月7日(月)～10日(木)

会場：タイ バンコク

公式ホームページ：<https://idf2025.org/>

2025 Pediatric Endocrine Society (PES) Annual Meeting

2025年5月15日(木)～18日(日)

会場：アメリカ ナショナル・ハーバー

公式ホームページ：<https://pedsendo.org/education-events/pes-2024-annual-meeting/>